

令和2年2月における会員の財務状況等

日本商品委託者保護基金

1. 会員数の状況

会員数は26社。内訳は受託会員14社、取次会員12社となっている。

2. 委託者数等の状況

委託者数は延べ79,904人で前月から167人減少し、建玉委託者数も11,473人で前月から936人減少となった。また、役職員数は3,864人で前月と同数だった。

3. 委託建玉及び預り証拠金の状況

委託建玉は485,710枚で前月から18,334枚減少した一方、預り証拠金は1,289億58百万円となり前月から12億85百万円増加した。また、委託者に占める建玉委託者は14.4%となり前月から1.1ポイント減少した。なお、委託建玉が減少し預り証拠金が増加した要因は、金価格が5,000円台中盤から5,900円台に上昇し相場来高値を更新したことにより、価格上昇に耐えられなくなったショート筋が建玉決済する一方で追証の入金があったことや受渡証拠金の入証等があったためである。

4. 純資産額の状況

会員の純資産額は総額3,358億69百万円となり、前月から3億78百万円の減少となった。なお、下記5のとおりの当期損益が黒字にもかかわらず純資産額が減少した要因は、JPXの株式評価損を計上した会員と自己株式を取得した会員がいたためである。

5. 損益状況

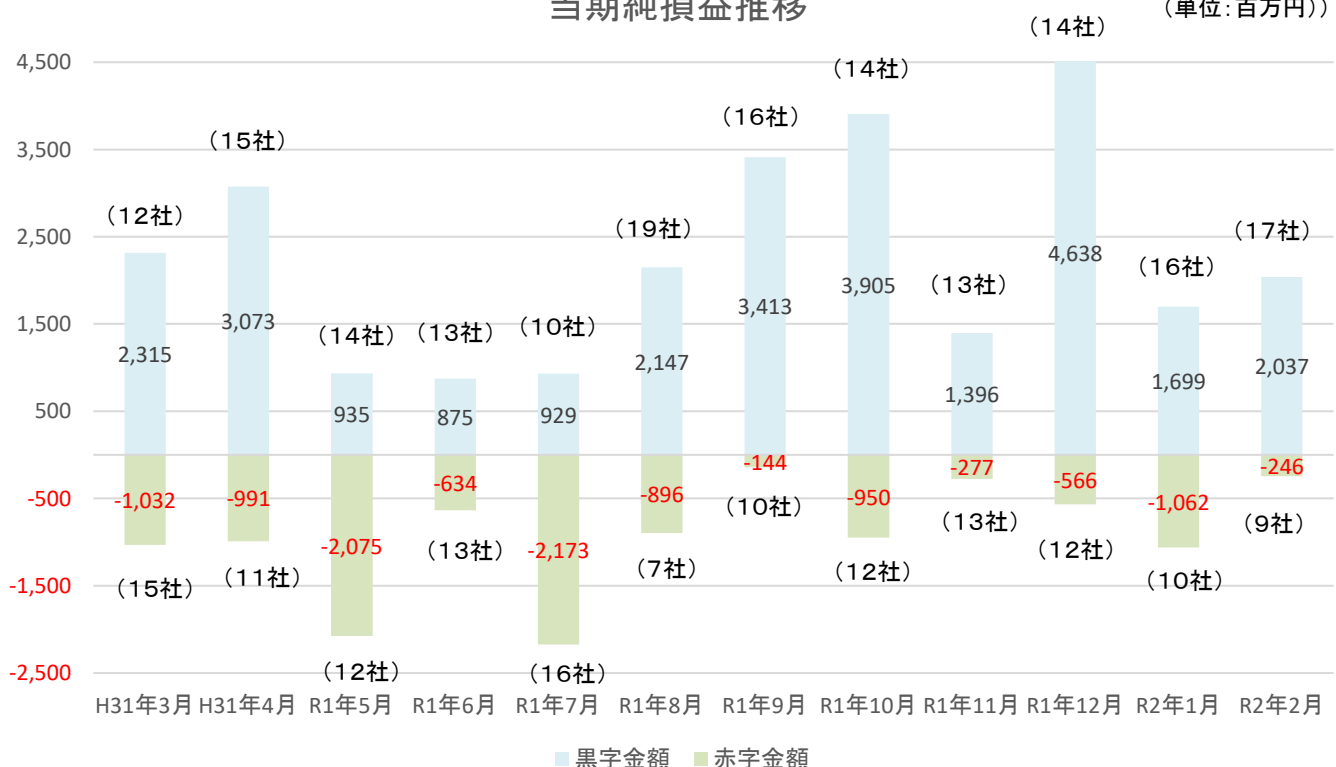
今月の当期純損益について、黒字の会社が17社、赤字の会社が9社となった。委託取引高が351万枚を記録し、令和元年8月以来6カ月ぶりに350万枚を回復した。前月の316万枚から大きく増加したことに伴い、「商品先物取引に係る受取委託手数料」が増加した。また、「その他の受取手数料」が大きく増加し、当期純損益は約18億円の黒字を計上した。

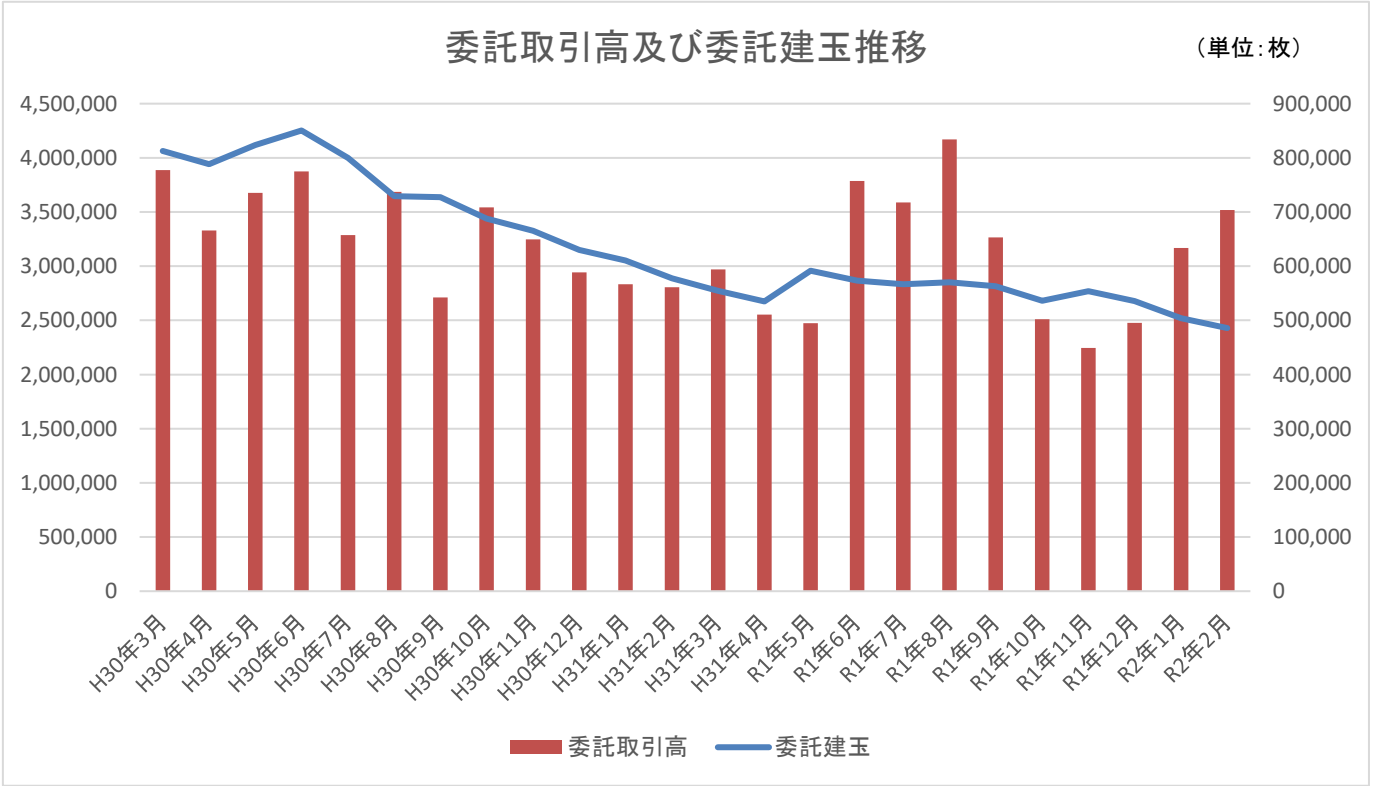
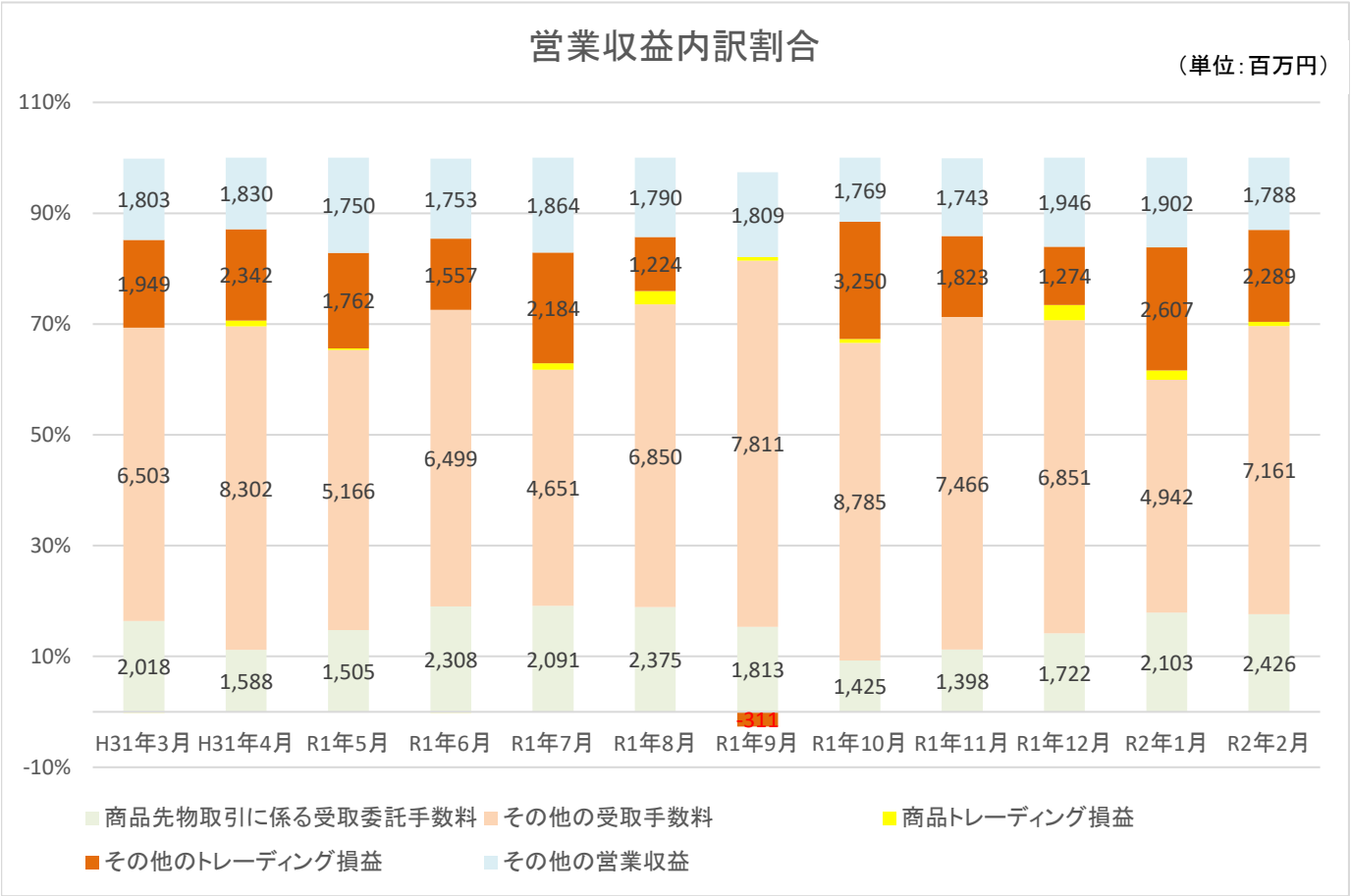
6. 取引高の状況

委託取引高は、前月比35万801枚(11.1%)増(前年同月比25.6%増)の約351万枚となった。金標準取引(前月比355,894枚(27.1%)増の約166万枚)、東京ゴールドスポット100(前月比91,838枚(41.6%)増の約31万枚)及び原油(前月比103,391枚(24.6%)増の約52万枚)が増加した一方、白金標準取引(前月比147,692枚(22.7%)減の約50万枚)の減少が目立った。また、電力先物が合計559枚を計上し、前月(5,206枚)に比べ大きく減少した。

当期純損益推移

(単位: 百万円)





以上